

タッチパネルを用いた PC・携帯電話に求める機能

1.はじめに

3月29日に高知大学で「タッチパネルを用いた PC・携帯電話に求める機能」という題目で行ったブレインストーミング(以下 BS)・KJ法の結果を以下に述べる。

2.題目の追加

BSを進めていくうちに、より充実した意見を得るため「3次元タッチパネル」という製品を仮想し、「3次元タッチパネルを用いた新製品」という題目を追加し BS を進めた。

3.グループ分け

集まった意見は大きく以下の4グループに分けられた。

- 触り心地
- 入力方法
- 操作方法
- 新製品

また新製品のグループ内は「日常生活」、「体感ゲームへの利用」の2グループに分けられた。

4.集まった機能案

まず「触り心地」グループ内にはタッチパネル上の文字が浮き上がった感触になるという案。ネット閲覧時にリンク部の温度が変化するなどという案が集まり、ユーザの補助機能という傾向が見られた。

次に「入力方法」グループ内には文字入力時に画面を押す力で文字色を変更するという案。専用のペンを使用することで筆跡を筆や万年筆で書いたようにするという

案など入力方法の幅を広げる機能が集まった。

「操作方法」グループ内には画面上で手を握る動作をするとアイコンが集まるという案。指を他のユーザに向かって滑らす動作をすることで情報を送信するといった案などユーザの操作のバリエーションを増やす機能が多数集まった。

最後に「新製品」グループ内の「日常生活」グループ内には小型化してメモ帳として使うという案。家の様々な機器を制御するリモコンとして使うといった案など生活の一部にタッチパネルを用いることで利便性を求めた新製品の案が多数集まった。また「体感ゲームへの利用」グループ内には擬似的に楽器の演奏やロッククライミングの体験。全身がタッチパネルで出来たペットを育成するという案などが集まった。「体感ゲームへの利用」グループ内のほとんどの案は「3次元タッチパネルを用いた新製品」の題目から得られ、平面ではなく立体的であるためよりリアルに体感したいという思いからこのような案が集まったと考えられる。

5.おわりに

今回の BS を通じて自分では思いつかないような様々な意見を聞くことが出来た。